文　　化

（文化財、文化関係施設）

文

化

１　概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　56
２　文化財とその保護・・・・・・・・・・・・・・・・・　56
３　埋蔵文化財の保護・・・・・・・・・・・・・・・・・　57
４　鴻臚館跡の整備と調査・・・・・・・・・・・・・・・　58
５　福岡城跡の整備と修復工事・・・・・・・・・・・・・　58
６　美術館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　59
７　福岡アジア美術館・・・・・・・・・・・・・・・・・　61
８　博物館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　63
９　埋蔵文化財センター　・・・・・・・・・・・・・・・　65

文　　化

（文化財、文化関係施設）

1　概要

福岡市は、玄界灘を挟んで大陸と接し、古くから対外交流の門戸、拠点として発展してきました。このため市内に残る多数の遺跡の中には、日本の稲作農耕の始まりを示す板付遺跡、大宰府の前身とみられる那津官家跡、古代の迎賓館であった鴻臚館跡、蒙古襲来を防いだ元寇防塁など、ほかには見られない遺跡があります。

また古代以来、外交・貿易により発展を遂げてきた博多には、奈良時代から江戸時代までの都市の遺構が埋もれ、聖福寺、承天寺、櫛田神社、筥崎宮など古代・中世初期にさかのぼる寺社が多くあります。ユネスコ無形文化遺産に登録された博多祇園山笠も鎌倉時代に始まったと伝えられます。

室町時代後期に博多商人の町として栄えた博多は、江戸時代には福岡藩の城下町福岡と双子都市を形成しました。博多・福岡とその周囲の古くからの漁村・農村には、それぞれに特有の民俗が形成され、現在に至っています。

こうした歴史を背景に、市内には多数の文化財（建造物、美術工芸品、無形文化財、民俗文化財、記念物、埋蔵文化財など）が残され、国・県・市の文化財に指定されたものも多くあります。文化財は国民共有の財産として、将来に守り伝えられるべきものであり、その調査、保存、整備を積極的に進めるとともに、文化財保護思想の普及にも努めています。

文化事業としては、博物館が歴史資料、民俗資料、古美術資料、考古資料の収集保管と研究に基づき、展示や講座等の普及活動を進め、美術館は美術文化の振興を図るため、美術品の収集と研究、展示活動などを行い、福岡アジア美術館は、アジアの近現代美術作品の系統的な収集、展示やアジアの美術作家等との交流事業を行っています。

2　文化財とその保護

福岡市周辺は、地理的条件から古代日本における最先進地域として、また、文化の発祥地として位置付けられています。このため、豊富な文化財が残されており、これらの貴重な文化財の保存整備を図っています。さらに、計画的に文化財の保存・活用を進めるため、平成31年３月には、福岡市の文化財の総合的な保存活用の方向性を取りまとめた、『福岡市の文化財の保存活用に関する基本方針』を策定しました。また、同年４月に施行された改正文化財保護法では、市町村の文化財保存活用地域計画作成及び国による認定が位置付けられました。福岡市では令和２年度から計画の作成に着手し、令和４年７月に認定されました。

(1)　文化財保存整備・活用事業

① 金隈（かねのくま）遺跡（昭和47年国指定史跡）

福岡平野東側の丘陵にある弥生時代の共同墓地跡で、甕棺墓348基、土壙墓119基などが発見されました。棺内からはゴホウラ製貝輪や石剣などとともに残存状態の良い弥生人骨が多数出土しました。北部九州独自の墓制である甕棺墓の変遷、社会構成、また人種の問題など弥生時代研究に重要な意義を持っています。現在遺跡は整備され、ガイダンス施設「甕棺展示館」では125基の甕棺・土壙墓と人骨が、出土したままの状態で見学できます。

② 野方（のかた）遺跡（昭和50年国指定史跡）

早良平野西側の山麓にある弥生時代後期から古墳時代にかけての環濠集落と墓地跡。調査された地区だけで93 棟の竪穴住居跡が発見されており、邪馬台国時代の社会を考える上で極めて重要な遺跡の一つです。平成３年度に整備を終え、環濠を復元しています。またガイダンス施設「住居跡展示館」では、発掘調査時の状態のままで竪穴住居跡を展示しています。

③ 板付（いたづけ）遺跡（昭和51年国指定史跡）

福岡平野の中央に位置する弥生時代初頭の集落・墓地・水田跡。台地上の集落は二重の環濠に囲まれ、その周りの低地では水田が営まれていました。弥生文化形成における農耕村落の一典型を示す極めて貴重な遺跡といえます。平成７年度に整備を終え、環濠・竪穴住居・水田など当時のムラを完全な形で復元しています。ガイダンス施設「板付遺跡弥生館」では当時の生活が体感できる展示を行い、また土器作りなどの公開講座、田植えや稲刈りなどを通して「日本最古の米作りのムラ」の再現に努めています。

④ 吉武高木遺跡（よしたけたかぎいせき）（平成５年国指定史跡）

早良平野西側山麓に位置し、弥生時代中期初頭の特定集団墓や中期後半の大型建物の存在などから、弥生時代における「クニ」の成立と展開を知るうえで重要な遺跡として知られています。平成29年４月に国史跡吉武高木遺跡「やよいの風公園」として開園しました。開園後の公園では、「親子学習会」や「コスモスまつり」等のイベントを開催しています。

⑤ 福岡市赤煉瓦文化館（ふくおかしあかれんがぶんかかん）（昭和44年国指定重要文化財）

国指定重要文化財「旧日本生命保険株式会社九州支店」を保存整備し、貸会議室や文化財関連の展示を設けて、市民の文化交流の場として活用しています。令和元

年８月には施設のさらなる有効活用を図るために改修を行い、エンジニアカフェなどを設置しました。令和２～３年度に煉瓦塀の耐震対策工事を行いました。

(2) 無形文化財・無形民俗文化財の公開事業

無形文化財や無形民俗文化財の公開事業に補助金の交付を行い助成しています。

① 無形文化財

玄清法流盲僧琵琶

② 無形民俗文化財

はやま行事、飯盛神社のかゆ占、金隈の鳶の水、今宿上町天満宮の鬼すべ行事、今津人形芝居、飯盛神社流鏑馬行事、唐原の祇園山笠行事、山ほめ祭、香椎宮奉納獅子楽、志賀海神社歩射祭、田島神楽、城の原の盆踊り、志賀島の盆踊り

(3) 文化財資料調査

① 福岡市内寺社資料調査

市内所在の寺社収蔵文化財の所在把握と保存環境の改善、今後の保存活用を目的として、美術工芸品・典籍・古文書等を対象とする総合調査を実施しています。令和４年度は市内時宗寺院の収蔵資料の調査を行いました。

(4) 市内の指定文化財　（令和５年６月１日現在）

区分		国指定		県指定		市指定		合計	
		件数	員数	件数	員数	件数	員数	件数	員数
有形文化財	建造物	(0) 9	9	11	11	16	16	36	36
	絵画	(0) 13	18	6	27	16	43	35	88
	彫刻	(0) 11	32	13	17	19	38	43	87
	工芸品	(3) 20	22	15	22	21	21	56	65
	書跡・典籍・古文書	(1) 11	31	6	47	32	1,453	49	1,531
	考古資料	(1) 10	2,792	16	37	57	1,226	83	4,055
	歴史資料	(0) 0	0	2	4,806	6	1,054	8	5,860
	小計	(5) 74	2,904	69	4,967	167	3,851	310	11,722
無形文化財		(0) 1	17	7	11	2	2	10	30
民俗文化財	有形	(0) 0	0	17	116	14	246	31	362
	無形	(0) 2	2	7	7	21	21	30	30
	小計	(0) 2	2	24	123	35	267	61	392
記念物	史跡	(0) 13	19	5	5	14	20	32	44
	名勝	(0) 0	0	0	0	2	2	2	2
	天然記念物	(0) 2	2	3	3	4	865	9	870
	小計	(0) 15	21	8	8	20	887	43	916
合計		(5) 92	2,944	108	5,109	224	5,007	424	13,060

（）内は国宝（国指定の内数）

(5) 市内の登録文化財　（令和５年４月１日現在）

区分		国登録	市登録	合計
有形文化財	建造物	47	21	68
	絵画	0	0	0
	彫刻	0	0	0
	工芸品	0	0	0
	書跡・典籍・古文書	0	0	0
	考古資料	0	0	0
	歴史資料	0	0	0
	小計	47	21	68
民俗文化財	有形	0	0	0
	無形	0	24	24
	小計	0	24	24
登録記念物	史跡	0	0	0
	名勝	1	0	1
	天然記念物	0	0	0
	小計	1	0	1
合計		48	45	93

３　埋蔵文化財の保護

福岡市は大陸に近く、古来より先進文化受容の窓口として、我が国の歴史上重要な位置を占めてきました。このような歴史的役割を背景に、市域内には約 1,000 か所の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）が存在し、貴重な資料を提供しています。

これらの埋蔵文化財は国民共有の財産であり、将来的にわたって守り伝えていくことが文化財保護の理念であり、行政の責務です。福岡市では以下の事業を行っています。

(1) 各種事業に係る事前審査

公共事業、民間事業に伴う事前の届出・通知を受け付け、事業地内における埋蔵文化財の有無を文化財分布地図、現地踏査、試掘調査等によって確認しています。

令和４年度の事前審査件数は公共事業 170 件、民間事業 1,219 件、計 1,389 件と、前年度比で約 10%減少しています。窓口、ＦＡＸ、メールによる包蔵地の照会件数は 25,854 件と、前年度比で約 6.4%減少しています。試掘件数は公共 6 件、民間 325 件、計 331 件と、前年度比で約 7.8%増加しています。

(2) 緊急発掘調査

土木工事などによってやむを得ず破壊される遺跡については、工事に先立って発掘調査を行い、記録保存の措置を講じています。

令和４年度には下記の 26 遺跡で 54 件の緊急発掘調査を行いました。

有田遺跡群（273 次）、井尻Ｂ遺跡（51～58 次）、

板付遺跡（77～79 次）、今宿遺跡（６次）、
今津Ａ遺跡（２次）、今津Ｃ遺跡（２次）、
香椎Ａ遺跡（９次）、熊本遺跡（４次）、
五十川遺跡（27・28 次）、山王遺跡（19 次）、
下山門遺跡（３次）、次郎丸高石遺跡（８次）、
高畑遺跡（23 次）、田島Ａ遺跡（10・11 次）、
寺島遺跡（４次）、那珂遺跡群（191～193 次）、
中桑原遺跡（１次）、野芥遺跡（24～26 次）、
博多遺跡群（250～257 次）、
箱崎遺跡（123・125～129 次）、
福岡城下町遺跡（５次）、福重稲木遺跡（５次）、
南八幡遺跡（23 次）、麦野Ａ遺跡（33・34 次）、
麦野Ｃ遺跡（20 次）、吉塚遺跡（20 次）

上記の中で特筆すべきものとして、以下のものが挙げられます。高畑遺跡 23 次調査では弥生時代の銅戈の石製鋳型がセットで発見されました。残りの良い鋳型が両面セットで見つかることは非常にまれなことです。また、青銅を溶かして型に流し込む取瓶・坩堝も発見され、この地で青銅器製作が行われたことがわかりました。

(3) 資料整理

発掘調査を実施して得られた図面・写真などの各種記録類、出土遺物は整理・図化・編集などの作業を経て、発掘調査報告書として公刊されます。令和４年度は巻末の一覧の通り、報告書 27 冊、年報１冊を刊行しました。これらの報告書は関係各機関や図書館などに配布し、市民や研究者の閲覧に供しています。整理した記録・資料類は埋蔵文化財センターに収蔵保管し、調査研究や公開普及に活用しています。

(4) 周知と普及活動

調査成果を広く市民に知っていただくため、現地説明会やホームページによる告知などを行っています。

4　鴻臚館跡の整備と調査

(1) 整備

平成 31 年３月に、整備の具体的な内容やスケジュールを示す「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」を策定しました。それに従い、令和元年度～４年度まで鴻臚館跡展示館の改修を行いました。

(2) 発掘調査

平成 11～17 年度の第Ⅳ期調査により、東西方向の堀を隔てて南北に鴻臚館の施設が存在したことなどが判明し、平成 18～25 年度の第Ⅴ期調査では、平和台野球場跡地北側部分において、北館の北側の旧地形などを確認しました。令和元年度～４年度まで第Ⅵ期調査として、福岡高等裁判所跡地の調査を行いました。

(3) 公開事業

① 鴻臚館跡展示館

展示館では、平安時代の遺構と遺物を調査が終了したままの状態で見学でき、また当時の建物の大きさや様式を実感しながら理解できるように原寸大の建物模型を展示しています。館外は芝生広場として整備し、奈良時代から平安時代の鴻臚館の施設の移り変わりをわかりやすく平面的に表示しています。

② 展示館の入館者

令和４年度の入館者は、24,762 人となっています。

③ 鴻臚館広場

鴻臚館広場では「遺構表示」などの暫定的な整備を行っています。これによって鴻臚館跡の建物の大きさを実感してもらうとともに、市民の憩いの場や各種イベントの会場としての利用を促進し、鴻臚館跡への理解と愛着の醸成を図っていきます。

5　福岡城跡の整備と修復工事

(1) 整備

福岡城跡の整備については、平成 17 年度に今後の整備の理念と方向性を定めた「福岡城跡保存整備基本構想」を策定しました。

平成 24 年度から「国史跡福岡城跡整備基本計画」の策定作業に着手し、平成 26 年６月に策定しました。令和４年度は、潮見櫓建物の復元整備工事に着手しました。

(2) 調査

令和４年度は、福岡城に残る遺構を解明するために、祈念櫓の発掘調査を行い、祈念櫓の建物に関する基礎調査を行いました。

６　美術館

○所在地	中央区大濠公園１番６号
○建物構造	鉄筋コンクリート造２階建
○延床面積	14,630 ㎡
○設置年月日	昭和 54 年 11 月３日 平成 31 年３月 21 日リニューアルオープン
○主要施設	コレクション展示室(近現代美術室 A･B･C、古美術企画展示室、松永記念館室、東光院仏教美術室)、特別展示室、ギャラリーA･B･C･D･E･F ほか

福岡市美術館は、福岡市の美術文化の振興を図るため、水と緑豊かな市民の憩いの場、大濠公園内に、昭和 54 年 11 月３日に開館し、今日まで多くの市民に親しまれています。

(1) 基本性格

① 文化生活を豊かにはぐくみ、市民に愛される美術館
② 美術センターとして内外の情報サービスを行う美術館
③ 歴史と伝統を生かし、新しい未来を育てる美術館

(2) 事業概要

① 美術作品その他の美術資料の収集展示
② コレクション展示、特別展示、講演会等の開催
③ 特別展示室、ギャラリー、ミュージアムホール等の貸与
④ 内外の美術情報資料の収集と提供
⑤ 美術に関する調査及び研究
⑥ 教育普及事業
スクールツアー、ファミリーDAY、夏休みこども美術館、つきなみ講座、その他講座・講演会、博物館実習、ボランティア活動

※ 美術資料収集方針
○ 近代の西日本出身者や関係の深い作家の作品
○ 近現代美術の流れを展望できる国内外の優れた作品
○ 西日本に関係の深い近世以前の作品
○ 寄贈された一括コレクションに深いかかわりのある作品
○ アジア美術(東洋美術)の独自性を示す古代からの(近代以降を除く)優れた作品

(3) 施設内容

① コレクション展示室
○ 近現代美術室 A･B･C
20 世紀以降の国内外の近現代美術の流れを展望できるすぐれた作品を系統的に展示
青木繁「秋声」、黒田清輝「婦人像」、
坂本繁二郎「大島の一部」、児島善三郎「鏡」、
ラファエル・コラン 「海辺にて」
サルヴァドール・ダリ「ポルト・リガトの聖母」
アンディ・ウォーホル 「エルヴィス」
マルク・シャガール 「空飛ぶアトラージュ」
ジョアン･ミロ「ゴシック聖堂でオルガン演奏を聞いている踊り子」
ポール・デルヴォー「夜の通り」
レオナール・フジタ 「仰臥裸婦」
三岸好太郎 「海と射光」 ほか
○ 古美術企画展示室
古美術の小企画展や旧福岡藩主黒田家に代々伝承された絵画・工芸をはじめとした寄贈コレクションを中心に、日本・東洋の古美術作品を展示
重要文化財「泰西風俗図屏風」
唐物茶入 銘「博多文琳」 ほか
○ 松永記念館室
小田原の(財)松永記念館から寄贈された故松永安左ェ門氏のコレクションで重要文化財を含む茶道具、仏教美術を中心に展示
重要文化財　野々村仁清「色絵吉野山図茶壷」
重要文化財 尾形乾山「花籠図」 ほか
○ 東光院仏教美術室
東光院旧蔵の重要文化財「薬師如来立像」および「十二神将像」を中心に、同寺の仏教美術資料を常時展示

② 特別展示室
美術館主催の特別企画展のほか、美術団体等が主催する大規模展覧会、巡回展などを開催

③ ギャラリーA･B･C･D･E･F
市民の創作活動の発表の場として個展やグループ展などを開催

④ ミュージアムホール
講演会や講座のほか、上映会や演劇、コンサートの会場として利用

⑤ アートスタジオ
ワークショップや講演会、ダンス、パフォーマンスなどの場として利用

⑥ レクチャールーム
小規模な講演会や講座、ワークショップに利用

⑦ その他
キッズスペース、カフェ、レストラン、ミュージアムショップ

(4) 入館者の状況

○展覧会

（令和４年度）

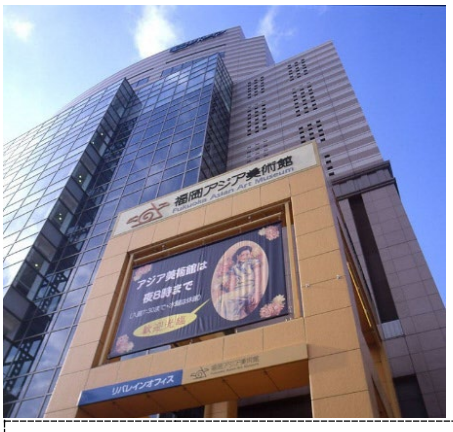
展覧会名			会期	観覧者数/人
主催事業	コレクション展示		通年	107,470
	特別展示	ミナ ペルホネン/皆川明　つづく	令和４年４月 23 日 ～令和４年６月 19 日	43,267
		tupera tupera のかおてん.	令和４年７月１日 ～令和４年８月 21 日	34,273
		国宝　鳥獣戯画と愛らしき日本の美術	令和４年９月３日 ～令和４年 10 月 16 日	53,306
		藤野一友と岡上淑子	令和４年 11 月１日 ～令和５年１月９日	6,644
		計		137,490
その他の貸会場展覧会			140 件	140,629
合計				385,589

○講座等

（令和４年度）

講座名		実施日数/日	参加者延人数/人
主催事業	ファミリーDAY	4	1,067
	つきなみ講座	12	728
	どこでも美術館	12	1,195
	夏休みこども美術 2022 ワークショップ「美術館と油山市民の森で水の音をつくる」	2	15
	夏休みこども美術館 2022 ワークショップ「水と色であそぶ」	1	125
	バリアフリーギャラリーツアー	3	37
	いきヨウヨウ講座「想いを届けるメッセージ～銅版画でカード作り」	2	14
合計		36	3,181

7　福岡アジア美術館



○所在地	福岡市博多区下川端町３番１号 リバレインセンタービル７・８階
○建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
○延床面積	9,101 ㎡
○開館年月日	平成 11 年３月６日
○主要施設	アジアギャラリー、企画ギャラリー、 交流ギャラリー、交流スタジオ、 あじびホール、アートカフェ、エントランス壁画、図書閲覧室等

アジア美術の独自の創造を目指し、アジア近現代美術を通じて人々が集い、互いに理解し、創造、発信する、アジア美術の国際的な交流の場として開館しました。

(1) 基本性格

世界的に類をみないアジア近現代美術作品のコレクションを生かした展示のみならず、日常的なアジアとの交流、調査研究活動を積極的に展開します。また、アジアの美術作家や研究者等と日本・福岡の美術作家、研究者、市民が互いに創り、学びあうことにより、新たな創造と相互理解を促す機会を提供します。

(2) 事業概要

① 美術交流

アジアの美術作家や研究者を招へいし、市民との共同創作、研究、ワークショップ、講座等を行う美術交流事業。

令和４年度は、令和２年度に見送った２名の美術作家（イ・ビョンチャン／韓国、リーロイ・ニュー／フィリピン）を招へいし、作品制作およびワークショップを行いました。

また、下半期からは、招へい作家の対象を国内外にひろげ、制作活動の拠点を Artist Cafe Fukuoka のスタジオに移したアーティスト・イン・レジデンス事業として拡充し、６名の美術作家（ゴン・ジエション／台湾、大西康明／大阪、ソー・ソウエン／福岡、ドクペルー／ペルー、下寺孝典／大阪、長野櫻子／福岡）を招へいしました。

令和５年度は、３期８名の美術作家（１期：ジン・チェ＆トーマス・シャイン／アメリカ、清水美帆／東京、山本聖子／福岡、２期：チェン・ウェイチェン／台湾、古賀義浩／福岡、３期：メイタオ・チュー／中国、川辺ナホ／ハンブルク・東京・福岡、花田智浩／福岡）を招へいします。

② 展示

ア　企画展示

独自の視点で企画した特別展を開催し、アジアの近現代美術を紹介します。

イ　コレクション展示

収蔵品を展示し、アジア近現代美術の流れを示すほか、ジャンル別やテーマ別にアジア美術を紹介します。

③ 収集

美術作品、その他美術資料の収集

方針：アジア美術の独自性を示す優れた作品を収集

対象範囲地域：パキスタン以東、モンゴル以南、インドネシア以北・以西

楊三郎（台湾）

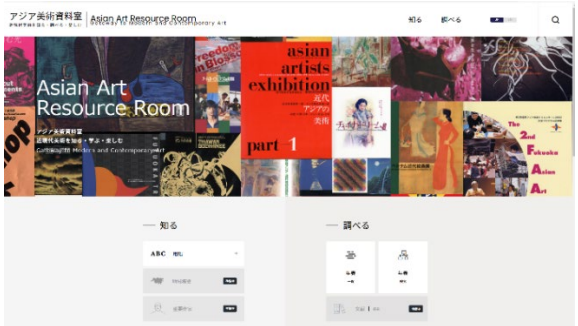
《南台風光》1940 年

④ 教育普及

ア　講演会・シンポジウム等の開催

イ　美術教育プログラムの実施

ウ　美術をはじめとするアジアの文化に関する情報の収集と提供



アジアの近現代美術を学ぶウェブサイト

「アジア美術資料室」（日／英）を開設。

(3) 施設内容

① アジアギャラリー

コレクションにより、アジア近現代美術の流れを系統的に展示し、また、ジャンルやテーマ別にアジア美術作品を紹介する小規模企画展を開催します。

② 企画ギャラリー

アジア美術のほか、幅広い分野の特別企画展を主催・共催します。

③ 交流ギャラリー

アジアの美術作家が福岡滞在中に創作した美術作品の展示や、市民に創作活動の発表の機会を提供します。

④ 交流スタジオ

アジアの美術作家の滞在制作や市民向けワークショップを実施します。

⑤ あじびホール

美術交流事業や展覧会にあわせて、美術教育プログラム、講演会やシンポジウム等を開催します。また、ミニコンサートや小演劇、上映会など、文化・芸術活動を楽しむ機会を提供します。

⑥ アートカフェ

アジアの美術、文化、歴史などの書籍約 10,000 冊が置かれており、食事や休憩とともに自由に読書が楽しめます。

⑦ エントランス壁画

１階エントランスでは、中国の人気アーティストのブー・ホァによる約４ｍ×11ｍの壁画が来館者を迎えます。

⑧ その他

図書閲覧室、ミュージアムショップなどがあります。

(4) 特別企画展

① 世界水泳選手権 2023 福岡大会記念展　水のアジア
会期　令和５年７月１日～令和５年９月３日

② おいでよ！絵本ミュージアム 2023FINAL
会期　令和５年７月 17 日～令和５年８月 27 日

③ 世界遺産　大シルクロード展
会期　令和６年１月２日～令和６年３月 24 日

(5) 入館者の状況

（令和４年度）

展覧会名			会期	観覧者数
主催事業	コレクション展		通年	56,480人
	特別企画展	おうちで！ 絵本ミュージアム2022	Ｒ４．７．19 ～Ｒ４．８．28	31,442人
		エモーショナル・アジア 宮津大輔コレクション×福岡アジア美術館	Ｒ４．９．15 ～Ｒ４．12．25	16,033人
	計			47,475人
その他の貸会場展覧会			55件	252,988人
あじびホール利用			144件	8,193人
アートカフェ来訪者				166,142人
施設利用者合計				531,278人

８　博物館

○所在地	早良区百道浜三丁目１番１号
○敷地面積	50,648.80 ㎡
○延床面積	16,920.62 ㎡
○建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造３階建
○開館	平成２年 10 月 18 日
○種別	歴史民俗博物館
○主要施設	常設展示室、企画展示室、特別展示室、講堂 講座室、体験学習室、授乳室、多目的研修室、オープンテラス、読書室

福岡市博物館は、福岡が古くから大陸との交流拠点として重要な役割を果たしてきたことを踏まえ、対外交流の歴史を基本テーマに、郷土の貴重な文化遺産を保存、継承するとともに、新たな市民文化の創造に寄与することを目的としています。

(1)　基本性格

① 先人の残した文化遺産を保存、継承し、東アジアにおける福岡の歴史と民俗を学ぶ博物館
② 文化遺産を通して市民とのコミュニケーションをすすめ、新しい市民文化を育む博物館
③ 調査研究機能とともに高度の情報サービス機能をもち、市民の生涯学習の場としての博物館

(2)　事業内容

① 博物館資料の収集と展示
② 博物館資料に関する調査研究
③ 博物館資料に関する企画展、講演会等の開催
④ 博物館資料に関する情報の収集と提供
⑤ その他必要な事業

(3)　博物館資料の収集

博物館の諸事業を効果的に行うため、昭和 58 年度から福岡の歴史と民俗に関係の深い資料の収集を積極的に行ってきました。令和５年３月末現在の収集資料は、累計で 192,438 件になります。

(4)　施設内容

① 常設展示室
平成 25 年 11 月３日、「FUKUOKA　アジアに生きた都市と人びと」をテーマにリニューアルオープン。福岡の歴史や人びとのくらしを独自の時代区分で紹介。また、すべての人にやさしく使い勝手の良い施設を目指し「ユニバーサル・ミュージアム」の理念を掲げ、体感型の展示方法も取り入れています。

② 企画展示室
４つの展示室に分かれており、博物館の収蔵品を中心に、歴史、美術工芸、考古、民俗の各部門の展示を定期的に行い、主に福岡市内及び近郊の様々な資料や文化財を、テーマを決めて紹介しています。

③ 特別展示室
博物館主催の自主企画展や、各種実行委員会等の主催による特別展を順次開催します。

④ 体験学習室「みたいけんラボ」
アジアの遊戯をテーマとして、アジア各国の芸能・玩具資料に直接触れることにより、アジアの人々の生活や文化を疑似体験できるようにしています。

⑤ 講堂・講座室
博物館や各種団体等の主催により、歴史・民俗に関する講演会、各種講座を開催します。

国宝　金印「漢委奴国王」

(5)　特別展示室

・驚異と怪異――想像界の生きものたち
　会期　令和５年３月 11 日～令和５年５月 14 日
・鈴木敏夫とジブリ展　また、会えたね！
　会期　令和５年６月９日～令和５年８月 31 日
・黒田長政没後４００年　黒田侯爵家の名品
　会期　令和５年９月 15 日～令和５年 11 月５日
・冨樫義博展　―ＰＵＺＺＬＥ―
　会期　令和５年 11 月 18 日～令和６年１月 14 日

(6) 企画展示室

室	展 覧 会 名 称	会　期
1	変わり兜展５ ―新収蔵の甲冑と武具―	3/14～5/28
	戦争とわたしたちのくらし 32	5/30～7/9
	地図と絵で見る海と船の福岡藩	7/11～9/3
	嶋井家文書の世界	9/5～11/5
	奈良時代の博多	1/30～3/31
2	殿様からの贈り物	3/21～5/21
	小絵馬―祈りと願いの図像学―	5/23～7/17
	没後４００年黒田長政	7/19～9/10
	古代の度量衡	9/12～11/5
	江戸の園芸	1/30～4/7
3	防人たち	1/17～4/23
	考古学のキホン	4/25～6/25
	館蔵仏教美術展	6/27～9/3
	タイ陶磁器展	9/5～11/5
	いにしえのデザイン ―発掘された文様図鑑―	1/30～4/21
4	土器 ni どきどき ―つくる・つかう・はこぶ―	3/28～6/11
	博多祇園山笠展２２／ ／幔幕３　―山笠と幔幕―	6/13～8/15
	斧と鍬	8/17～11/15
	ガラスびんの考古学	1/30～3/31

1 ～ 4	第 35 回新収蔵品展 ふくおかの歴史とくらし	11/7～1/28

(7) 講演会・講座等

特別展「黒田侯爵家の名品」関連　講演会・講座

・５月 21 日　プレ講演会

・９月 16 日　講演会「明治の殿様―近代化を支え人材を育て文化を伝える―」

・10 月 15 日　講座「黒田侯爵家の家宝」

(8) 子どもを対象とした事業

みんなのミュージアム

８月９日、10日（考古学にふれてみよう）

12月23日（土器づくり体験）

３月23日（金印封泥体験）

(9) 学習事業

① 博物館体験学習事業

市立中学校、特別支援学校（中等部）の生徒、市立小学校の児童を対象に博物館で体験学習を実施します。

小・中学校・特別支援学校実施予定学校数８校（255 人）

② 出前学習事業

市立小学校、特別支援学校（小学部）の児童を対象に、博物館から講師を派遣し、出前学習を実施します。

４メニュー　実施予定学校数　98 校（9,227 人）

(10) 福岡市史の編さん事業

市民の郷土に対する誇りと愛着を醸成するとともに、重要な歴史資（史）料を市民の財産として後世に継承するため、総合的で体系化された「福岡市史」を編さんし、福岡市発展の指針とします。

① 『新修 福岡市史』の制作

② 編集委員会・専門部会等の開催、資(史)料調査・収集整理

③ 講演会・研究会の開催（年１～２回）

④ 広報誌（年１～２回）、研究誌（年１回）の発行

(11) 入館者の状況

（令和４年度）

展　覧　会　名		観覧者数
常　設　展・企　画　展		81,593 人
特別展	ライデン国立古代博物館所蔵 古代エジプト展	68,051 人
	サンリオ展 ニッポンのカワイイ文化 60 年史	37,965 人
	独眼竜　伊達政宗	21,187 人
	鬼滅の刃　吾峠呼世晴　原画展	37,189 人
	驚異と怪異 ――想像界の生きものたち	23,006 人
	特 別 展　計	187,398 人
合　　計		268,991 人

※ライデン国立古代博物館所蔵古代エジプト展は、令和４年３月 12 日から６月 19 日まで開催

※驚異と怪異――想像界の生きものたち展は、令和５年３月 11 日から５月 14 日まで開催

９ 埋蔵文化財センター

○所 在 地	博多区井相田二丁目１番 94 号
○建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造３階建（一部２階）
○延床面積	10,713 ㎡
○設置年月日	昭和 57 年２月 22 日
○主要施設	展示室（第１・第２・第３）、研修室、図書室、資料閲覧室、収蔵庫・特別収蔵庫・記録類収蔵庫、木器処理室・金属器処理室・光学機器室、資料整理室 月隈収蔵庫（博多区月隈一丁目 13 番 17 号）

福岡市埋蔵文化財センターは、市域から出土した遺物や調査記録類を一括収蔵・保管し、また科学的な保存処理を施すとともに、市民が郷土の歴史をより身近なものとして学ぶために、これらを広く公開・展示し、市民文化の向上に資するために設置されました。

(1) 展示施設

① 第１展示室

埋蔵文化財の保護と保存をテーマに、市域で年間 50 件程度実施される発掘調査で出土する遺物と記録類が、調査現場から当センターに収蔵され、管理・活用されるまでの一連の流れを解説しています。

② 第２展示室

福岡市域が日本史のなかで最も脚光を浴びた『奴国の時代』である弥生時代と、国内最大の国際貿易港であった『中世都市博多』の時代に焦点をあて、テーマ展示を行っています。

③ 第３展示室

市域で最近実施された調査の中で特に重要とおもわれる遺跡の速報展や、考古学講座に合わせたテーマ展等、部門展示室として短期展示を行っています。

(2) 保存処理と調査研究

① 保存処理

令和４年度は木製品 167 点、金属製品やガラス製など 359 点について科学的保存処理を行いました。

② 調査研究

調査研究成果を年報（第 41 号）にまとめ、650 部を発刊、公共団体や研究機関へ寄贈しました。

(3) 普及活動

郷土の歴史を遺跡や遺物を通して学び、文化財保護思想の育成を目的に下記の講座・展示を開催しました。

① 考古学講座・発掘調査速報講座

ア 考古学講座は「海と山がおりなす歴史」を年間テーマとして５回開催し、計 250 人が受講しました。

	講座名	開催日	受講者数
1	縄文時代の海と山	R4.5.21	50
2	海辺と山裾の弥生時代史	R4.7.9	50
3	古墳時代の海と山を考える	R4.9.3	50
4	奈良時代の海と山、マネジメントのはじまり	R4.11.19	50
5	中世博多のチャイナタウンと航海目標となった山々―油山・首羅山・若杉山・背振山―	R5.1.14	50

イ その年度における市内の発掘調査の報告である発掘調査速報講座「発掘調査総まくり」は計 80 人が受講しました。

	講座名	開催日	受講者数
1	発掘調査総まくり	R5.3.18	80

② 展示

第１展示室、第２展示室は常設展示室として、それぞれ、発掘調査から資料の保存活用までの流れ、弥生時代の奴国と中世都市としての博多を紹介する展示を行っています。

第３展示室では、「海と山がおりなす歴史・前期展」（５～10 月）、「海と山がおりなす歴史・後期展」（10～２月）、「新発見速報展－発掘されたふくおか 2023－」（３月）と題するテーマ展示を行いました。

③ 館外展示

当センターでは、出土品の活用の一環として、地域学校等の身近なところで出土品と接する機会を積極的に設け、市民の文化財保護に対する理解が深まるように努めています。

(4) 教育活動

① 出前授業

出前授業は福岡市内から出土した豊富な歴史遺産を収蔵庫に眠らせたまま後世に伝えるのではなく、新たな資料活用法として出土品を学校へ持ち込み、文化財専門職（センター職員）が授業を行うものです。

「ふるさと福岡」を誇りに思う子供たちを育てることを目的に、授業は①校区内遺跡からの出土品に直接触れて歴史を身近に感じること、②大昔の生活体験を行い歴史認識を深めること、の２本の柱から構成されています。

令和４年度は、５月から 11 月にかけて、39 校の小学校で計 107 回の授業を行い、3,072 人が学習体験を行いました。

・令和４年度　出前授業主要メニュー

授業メニュー	サブタイトル
めざせ！考古学者	今日から君も郷土の歴史博士
古代技術に挑戦！	毎日がサバイバル！古代の技術を学ぼう

・令和４年度　出前授業実施状況

	学校数	授業回数	受講生徒数
市立小学校	39 校	107 回	3,072 人
市立中学校	0 校	0 回	0 人
特別支援学校（小学部）	0 校	0 回	0 人
特別支援学校（中学部）	0 校	0 回	0 人
合　　計	39 校	107 回	3,072 人

（出前授業風景）

② 学芸員実習

博物館相当施設として、学芸員資格取得を希望する県内の大学から３名が１週間の博物館実習を行いました。実習ではセンター職員の指導のもと、出土品の科学的保存処理作業、収蔵品の取り扱い、図書整理実務、展示実習を行いました。

(5) 資料の収蔵と活用

市域内の発掘調査による出土品や調査記録類を一定の収蔵方法によって整理・収蔵し、また必要なものについては科学的処理を行い、調査研究や貸出など各種の利用に役立てています。

① 収蔵

令和４年度は、福岡城跡、博多遺跡群など 136 件の遺跡調査等の収蔵を行いました。その内訳は、遺跡の出土遺物（コンテナ 2,779 箱、甕棺 42 個）と記録類（写真 34,237 点、図面 3,597 枚等）等の本所蔵になります。これにより延べ 2,235 遺跡について検索、公開できるようになりました。

② 資料の利用・活用

博物館などの展示資料や出版物の掲載資料、また小学校の補助教材として考古資料や写真の貸出し、さらには資料の撮影、閲覧申請への対応なども行っています。令和４年度の資料利用・活用は 290 件、16,687 点でした。

③ 図書の整備と利用

考古学関連書籍や全国の遺跡調査報告書を収蔵している図書室の蔵書数は令和４年度末で 109,369 冊を数えます。一般者の利用は 232 件でした。

(6) 入館者の状況　（令和４年度）

区　分	個　人（人）	団　体（人）	合　計（人）
学　生	266	73	339
一　般	2,271	912	3,183
合　計	2,537	985	3,522